



さ SA く KU ら RA



Nov.2018

発行/ボーイスカウト世田谷第5団広報部

ビーバー隊

10月7日 ハンバーガー作り

ビーバー隊隊長 草嶋隆行

新聞紙を使った工作を行いました。メインはハンバーガー作りですが、まずは小手調べとしてサッカーボールを作ります。はさみなどの道具の正しい使い方を指導しながら、ボールを作り終え、間髪を入れずに本題のハンバーガー作りです。バンズ、レタス、チーズ、ハンバーグとみんなも大好きなハンバーガーを新聞紙で作っていきます。出来上がりのクオリティは驚くほど高いのですが、ちょっと作業が難しい部分もあり、リーダーやお手伝い頂いた父兄のサポートが必要な部分もありました。

私自身はちょっと当日微熱があったため、途中部分は席を外しておりましたが、解散前に戻ってみると、思いの外静か!!最後の追い込みを一生懸命しているところでした(途中で退屈したのか『学級崩壊』したようですが・・・)。最後は作ったハンバーガーを持って記念写真。お迎えに来た保護者の方もびっくりなクオリティとなりました。



10月28日 生田緑地ハイク

ビーバー隊隊長 草嶋隆行

今年も生田緑地ハイクの季節となりました。昨年に続いた開催ですが、今年は大変な新入隊員が多かったので皆さん、家庭も含めて初めてのスカウトが多かったです。

まずは登戸まで移動。懸念されていた電車での移動は、保護者のお手伝いを頂いたことと、参加スカウトが計8名と大人数ではなかったこともあり、大きな問題なく過ごせました。

登戸からは緑地まで2kmほどの徒歩です。登戸駅周辺は歩道がない道もあり、安全には細心の注意を払って進んでいきます。『まだー?』の声を何度も聞きつつ、無事に生田緑地に。そこからも菖蒲園に寄り道しながらプラネタリウムに行きました。上映までの時間に屋



上で昼間の太陽や星を望遠鏡で見るともりでしたが、あいにく雲が多く、中止でした。。。お弁当を食べ、ちょっと遊んだ後にプラネタリウムです。

今年には子供向けのプログラムにアニメも加わり、なかなか楽しいものでした。プログラム終了後はいよいよハイクです。例年は、秋のレア生き物探し大会をして、スカウトの目の鋭さに感心することしきりですが、今年は企画が成立する気配がなかったので、無理強いせずそのまま歩きます。今年あまり歩いていない分、たっぷり歩きました。遠回りして樹笠山に登った後、遊具で遊んで行きと同様、登戸から帰りました。

今回も前回同様、延べ5名の保護者にお手伝いを頂き、ありがとうございました。

カブ隊

10月1日 赤い羽根募金活動

C S隊 副長 清水恵子

10月1日都民の日に、赤い羽根共同募金の奉仕をしました。
まさかの台風通過直後で、都内の鉄道は早朝から大混乱(@_@)「目黒線は振替輸送を行っております」という構内放送も聞こえ、さらに急ぎ足になって改札に駆け込んでいく方が多く見られました。
そんな中でしたが、各組元気によびかけてたくさん募金いただくことができました。
いつものように澤さんが激励に来てくださいました。スカウトのおうちの方も来てくださっていました。
（「おじいちゃんとおばあちゃん来るんだよ。まだかな～まだかな～」とスカウトはそれはそれはうれしく待っているのですよ(^_^)）
がんばっている姿を見てくださるのはスカウトにとって大いに励みになります。今後の活動も、どうぞ遠慮なくご覧においでください。



1組ま [REDACTED]

初めての募金をするうさぎなどにやり方を教えながら、大きな声でじゅうじつした活動ができました。
うさぎやしかは来年もっとうまくできるようがんばってほしいです。
社会にこうけんした気がしました。
特に駅でさいふを出したと同時に募金に入れてくれた人がうれしかったです。



2組ま [REDACTED]

僕は赤い羽根募金活動が今回で3回目でした。たくさんの方が募金をしてくれて、優しい人が多いんだなぁと感じました。
次は募金活動していたら、ぼくが募金をしてあげようと思いました。

10月11日 いかだづくり&レース

副長 太田雄介

毎年、いかだレースの日は天気は危ぶまれるものの、結果的には大丈夫だった！ということが多いのですが、今年も雨がぱらつく場面はあったものの、レースにもハイクにも影響が出ることはなく、よかったです。

午前中は尾山台小でいかだ作り。割り箸8膳と輪ゴム16本だけで作る、ミニミニいかだです。デザイン審査の基準は、カッコいいか？速そうか？個人的か？

の3点だったので、オリジナリティを追求したかったいいいかだが沢山できあがりました。デザイン審査では2組がトップに立ちましたが、見た目がかっこいいのが勝つとは限らないのがいかだレースの面白いところ。午後のレースの結果はどうなるのか…。

二子玉川まで電車で移動して、その先はバスに乗り換え、次太夫堀公園まで。喜多見にある野川から農業用水を引き込んだ公園です。園内には用水路が走り、

小さな水田もあります。下見の時には大きな稲穂が頭を垂れていましたが、当日にはすっかり刈り取られたあとの田んぼに案山子が寂しそうに列を成していました。公園の奥にある用水路の引き入れポイントが、毎年のスタート地点です。到着したらまずカブ弁を食べ、レースに備えます。

最初は組の中で予選をしました。各組の1～4位が次の決勝で同列の者と競う形です。やはり、デザインに凝って突起が多いものは川底に引っかかったり、障害物に阻まれたりしてなかなか先に進めません。そんな時には「神の手」が登場します。大袈裟な名前ですが、バドミントンのラケットです(笑)。神の手の助けも受けながら、流れの中をいかだたちが進みます。スカウトたちも、いかだを追うように用水路の脇を駆けながら応援。間に、デンリーダー対決や、隊長&副長たちのエキシビションマッチも挟みながら、決勝レースを終えました。

レースの結果は、僅差で4組がトップに！総合結果発表は終わりの会まで持ち越しです。

帰路は徒歩です。野川沿いを下って鎌田の住宅街を抜け、多摩川の土手に出ました。去年までは川原で石切りをしたり藪に分け入って探検したりしていたのですが、大雨や浸水の影響か、石の川原が消失していたことが下見の時にわかったので、今年は残念ながらパス。ひたすらひたすら河川敷を歩きました。1時間ほど歩いたあとに着いた兵庫島で帰りの会。

総合優勝は…、2組でした！1位と4位の差が4点ほどと、ほんとうに大接戦でしたが、2組おめでとう！他の組もがんばりました！

二子玉川の駅まで再び歩き、解散となりました。工作と遊びと運動がバランスよく1日に詰まったいかだレースは、僕のお気に入りのプログラムの一つですが、みんなはどうだったでしょう？またいかだを持って、家族でどこかの小川で遊んでくれたらうれしいです。

2組 DL 石井無二

いかだ作りでは、子ども独特な自由な発想で、動物の形にしてみたり、あえて輪ゴムを緩く結んでオールのように各部位が動かせるように工夫してみたりと個性の光る作品ばかり出来上がり、驚きました。2組は個人賞に2人も選ばれ大喜びでした。
場所を移動して午後のレースでは、イメージ通り走らず、残念そうなスカウトも、各組とのレースを何度も見て応援する度に次こそは自分のが1番になるぞと気持ちを切り替えながら楽しむ姿がありました。石や落ち葉に引っかかるのも勝負の運であり、それによってどんでん返しが有りとても盛り上がりました。

3組 しか [REDACTED]

今回のカブ活動のいかだ作り、いかだレースではいろいろなことを学びました。

いかだ作りでは、デザイン賞や、レースでどのようなイカダがよいのかなどを2～3年経験していて、よく知っている組長や次長が、有利だと思いました。僕も組長の秋山さんに教えてもらいました。

いかだレースでは、その場で改造してる人もいたけど、高さのあるいかだは、デザイン賞ではいいけど、トンネルで引っかかるから、高さはちょっとだけにしたほうがいいと思いました。僕はスカウト内で7位でした。いいと思ったのは高木さんと皆川くんでした。

高木くんのは、輪ゴムを旗に見立てて、旗上げ号と名付けたところは想像力が凄いなと思いました。割り箸でダイヤを作っていたと思ったけれど、輪ゴムでダイヤを作っていたのもすごいと思いました。

同じ組の皆川くんは、最初の10分ぐらいいは、何をしようかと悩んでいたけれど、後から浮かび上がってきたみたいで、せつせと作っていました。サメのヒレのように見立てた割り箸では、佐藤君にもアドバイスをもらっていて、サメシャトルという名前はその形に合った良い名前だと思いました。

来年はこのことを教訓に、デザイン賞でもレースでも上位に入れるように頑張りたいです。



10月20-21日 尾山台フェスティバル

副長 畑崎祐子

制服を着たカブスカウトとリーダーは、宣伝効果バツチリ。制服で書店街を歩いたりすると「あ、ボーイスカウト！」とひそひそ話す親子さんに会ったりするので、世の中に浸透しているんですね、この制服。火おこしやロープワークも、けっこう興味を持ってくれるお客さんがいらして、スカウト達も商売繁盛！ひとりでもふたりでも、あたらしいメンバーを迎えられるといいですね。

3組 DL 高木裕美

カブスカウト7名・ビーバー1名の計8名でブースのお手伝いをしました。
今年のおやフェスは晴天に恵まれ人出も多く大賑わい。一番人気は火おこし器体験で、子供から大人まで大勢の方が体験して下さいました。火おこし器がインスタ映えするからか写真を撮る方多数！
ロープ結びと寝袋体験もあり、最初は恥ずかしそうに隠れていたスカウト達でしたが、前に出て大きな声で呼び込みをしたりロープ結びを教えたり、積極的に接客してくれました。5団の存在を知ってもらえる良い機会になったと思います。これを機に、新しい仲間が増えるといいですね。

1組 くま

今日の尾山台フェスタは、2時ぐらいまでちょびちょびお客さんが来ましたが、2時からはお客さんが結構来たので、忙しくなりました。忙しかったですが、楽しかったです。

2組 しか

今回はボーイスカウトのことを知ってもらおう活動でした。小さい子に火起こしを教えたり、寝袋に入ってもらったりしてボーイスカウトについて知ってもらいました。これを機に仲間が増えるとうれしいです。



ボーイ隊

10月19~21日 アメリカフロンティアキャンプ (AFC) @米軍基地

BS隊 カモメ班

僕は今回初めてAFCに参加しましたが、内容がとても充実していてすごくいい思い出となりました。他のキャンプではめったにできないようなことばかりやらせてもらえ、全く飽きることがありませんでした。いつもとは違う班で行動したため、たくさんの友達もできて本当によかったです。次回もまた参加したいです。

BS隊 カモメ班

今回のアメリカンキャンプでは、おのを投げたりライフルをうったりと日本に住んでいたら普通はできないような貴重な体験をたくさんさせてもらいました。アメリカのスカウトに「好きなスポーツは何ですか」と英語で聞いたところ「ベースボール」と答えが返ってきて英語が伝わったこと、さらにサイトでの待ち時間にほっぺをつつかれたので変な音を出したらものすごくうけてくれたことが嬉しかったです。ぼくは夏のジャンボリーには行けなくて残念でしたが、一生に一度行けるか行けないかのアメリカンキャンプに行けてラッキーでした。

BS隊 トナカイ班

僕は10月の19日から21日までAFCに参加しました。向こうでは知らない団の人たちとの生活だったので少し不安でしたが、最初のテント設営で打ち解けることができました。また、二日目には知らない地区や外国人の人と一緒にアクティビティをしました。僕が特に楽しかったのは一番みんなで協力できた火起こしです。今回のキャンプでは知らない人とでも何かを為し遂げる喜びや大切さ、交流の深さについて学ぶことができました。その様なことができたのも現地のスタッフや指導者の方々のお陰だと思うので感謝したいと思います。また、これからもっと異国の方などの人と交流できれば良いなと思いました。

BS隊 トナカイ班

普段入れないアメリカの施設に入れることができとても楽しかったです。一番楽しかったのはキャンプファイヤーを他の隊といっしょにやったことでした。



BS隊 トナカイ班

他の団の人と交流するのは緊張したけど、やってみると楽しかった。寝るときが一番楽しかったが寒くて風邪引いてしまい月曜は学校を休んだ。アメリカの菓子はすごいです。キャラメルなんだが味はゴム。肉は固くてナイフなしでは食べられない。アメリカに生まれていたら俺はどうなっていたんだろう。日本に生まれてよかったです。



10月20～21日 尾山台フェスティバル警備奉仕@尾山台ハッピーロード

BS隊 オットセイ班 [REDACTED]
僕は、尾山台フェスティバルの交通整備をしました。思ったより人がいた気がして、やだなと思う事はありませんでしたが、しっかりと声を張り上げて交通整備を出来ました。PR活動できたと思います。でも、ボーイスカウトブースではなかなかやる事が見つからず、交通整備に回ってしまいました事が反省です。しかし、役割を果たすことはできたと思っています。次回の活動は11団との合同キャンプという貴重な機会なので頑張りたいです。

BS隊 オットセイ班 [REDACTED]
交通整理。ぼくは初めてやったことだ。小学校の警備員さんや、前に先輩たちが交通整理をしているところをなんとなく見ていたが、実際に自分もやってみるととても難しかった。だから、クルマが来たときもローバーの方たちや先輩たちのように、大きな声を出せなかった。ぼーっと立っていることの方が多かった。3時間という短い時間だったのに、なぜか時がたつのがおそかった。でも、何回もやることによってだんだんと慣れていった。そのときは、楽しかった。次に交通整理することになったら、先輩たちのように大きな声をあげて、人々をゆう導したいと思う。

ローバー隊

「現場に行っていないのに、ジャンボリーについて書く」

ローバー隊隊長 渡口要

17NSJが終わって3ヶ月が経とうとしています。ボーイ隊以上のスカウト達がジャンボリーをいかに楽しんだか、このさくらの原稿やボーイ隊のHPにupされている写真などでご存知かと思います。

さてそれらジャンボリーの写真ですが、そのほとんどはローバー隊のスカウトが撮ったものです。そのことの意味について、少し変わったことを書こうと思います。

今回のジャンボリーにはローバー隊から7名のスカウトが参加しました。ローバー各々のさくら原稿から分かる通り、それぞれに自分の役割を果たし、大会を盛り上げるのに奉仕したのです。隊長の私は何の貢献もしていないので、申し訳ないと思うとともに、ローバースカウト達をととても頼もしく思いました。嬉しくなると、「ローバー隊のHPは文字のみ」という方針だったはずなのに、思わずTOPページに写真を載せてし

BS隊 カモメ班 [REDACTED]
今回の尾山台フェスティバルの手伝いは、前回とは違い晴れだったのでやりやすかったです。最初は、声を言い出しにくいところはあったけれど、2人以上でやるとやりやすいことが分かりました。次回もそうしてくれるとやりやすいです。ボーイスカウトのブースもまあまあ賑わっていたので良かったと思います。



ました。感謝しています。ありがとう。

さてそんなローバーの貢献の中で、多くの写真とともに現地報告してくれた大浦君の仕事は素晴らしかった。ボーイ隊のスカウト達に密着して、現場の生き生きとした様子をリアルタイムで伝えてくれた写真の数々。例えば次の1枚を見れば、その「近さ」が分かってもらえると思います。



大浦君の報告の全体はボーイ隊HPの「レポート」でご覧いただけますが、その8日目(8/10)で神田BS副長が言っているように、最終日になってはじめて大浦君自身が写った写真がupされました。ほとんど全ての写真には、大浦君は写っていない。当然です、ほとんど大浦君が撮影しているのですから。

写真には、撮影者自身が写らない。当たり前のことを言っているようですが、これは重要な認識です。「自撮りはどうなんだ?」と思われるかもしれませんが、自撮りが一般化したのはスマホのインカメラが普及したごく最近のこと。写真は本来的に、被写体をレンズ越しに眺める存在=撮影者自身が写らないという、ある種の「盲点」を持った装置なのです。

ところで、このような写真の特徴は映画にも当てはまります。実はこの特徴を使って人間の「主体」について考える学問が、20世紀の哲学では流行しました。簡単に言えばそれは、写真や映画をみるときに、単にそこに写っている/映っているものだけを見るのではなく、そこには写っていない/映っていない撮影者=盲点をも「観る」こと。そのような「高度な」鑑賞が出来るようになることと、近代的な「主体」になることを同じだと考える学問です。写真や映画にうつっているものだけしか見えないのは「未熟=子供」である。そこにうつっていないものを「観れる」ようになって初めて「成熟=大人」だとみなす、というわけです。

ということで、スカウトの皆さんには「高度」かつ「成熟した」方法で、ボーイスカウトの活動写真を観て欲しい。そうすれば、どの写真からも撮影者の存在=眼差しを通して撮影者自身の想いが伝わってくるはず

大浦君の写真には、スカウトたちの喜怒哀楽が写っています。それはジャンボリー期間中、彼がスカウトたちの表情を確認できる「近さ」で行動を共にしていたからです。まるで「ネタばらし」のようにボツンとupされた8日目(8/10)のバス中の大浦君自身が写った写真を気付きのヒントにして、撮影者に想いを馳せてジャンボリー写真を見返してみてください。

もう1枚、紹介したい写真があります。ジャンボリー一開会式を撮影した次の写真です。



上述した「写真の観方」を実践してみましょう。この写真を撮っているのは誰か? 何故このような写真が撮れたのか? カメラを構えた彼は、このとき何を考えていたのか? 撮影者のことを想像すると、この写真がグッと良いものに見えてこないでしょうか?

この写真は、先ほどの大浦君の写真とは随分違います。スカウト一人一人の顔は認識できません。コントラストが強いため、ステージ上は燃えるように明るく、何が行われているのか分かりません。大浦君の写真が「近さ」を示しているのに対し、この写真からは「遠さ」が感じられるのです。ローバー隊の清水君がこれを撮りました。

大浦君が「参加隊」のリーダーとしてジャンボリーに行ったのとは違い、清水君は「奉仕隊」のスタッフでした。どちらもスカウトたちの楽しみをサポートする役目は同じですが、参加隊のリーダーが常に同じ隊のスカウトたちのそばで行動するのに対して、奉仕隊のスタッフはジャンボリーに参加する全スカウトに対する裏方を引き受けます。つまり、奉仕隊のスタッフは参加隊のリーダー以上に地味な、影ながらジャンボリーを支える存在のため、スカウトとの距離は「遠い」のです。

17NSJに参加したローバーのさくら原稿には、「一歩引いた」リーダーあるいはスタッフとしての感想が多いと思います。しかしその一歩引く度合いは、ローバー毎に違います。参加隊ローバーたちが「近い場所でスカウトを助ける様子」を原稿に書いているのに対し、奉仕隊スタッフだった清水君と横山君は「遠い場所からスカウトを見守る様子」を原稿に書いている。各原稿の間に、スカウトとの距離のグラデーションがあるのです。

そう、スカウトの皆を支える多くの人々の貢献には、グラデーションがあります。スカウトへの視線の距離に長短があります。ジャンボリーの開会式を遠くから撮影していた清水君は、2018年さくら9月号の彼の文章から言葉を借りれば「(開会式を)売店部の仲間と会場の外から見」て「大いに盛り上がり」ていた。その様子は、清水君の写真の手前に写っている、おそらく他の奉仕隊スタッフであろうスカウトたちの姿からも想像できます。写真には写っていないカメラのレンズのさらに手前側で、清水君は仲間と「大いに盛り上がり」ながら、開会式に参加するたくさんのスカウトたちを見守っていたのです。

以上のようにして、2枚の写真から撮影者である大浦君と清水君の想いが、その眼差しを逆算することで推察できます。カメラは対象(=スカウト)を撮影するだけでなく、同時に撮影者(=ローバー)自身をも「逆」撮影するのです(ちなみにこれは、推理小説や推理漫画などで、犯人が見たであろう景色などから犯人

自身の性格等を推理するのにも似ています。「盲点」は推理小説の重要な要素です。

そして実は、もう1つ忘れてはいけない眼差しがあります。本稿を読んで写真を観ている皆さん自身の眼差し。つまり、鑑賞者の眼差しです。

写真用紙やディスプレイの外側にいる鑑賞者。典型例はスカウトの皆の親御さん、は17NSJに参加していません。あるいは育成会の方も同じです。これら「現場に行かなかった人」は、スカウトからの距離がさらに「遠い」と言ってもよい。つまり17NSJに関しては、参加スカウトからの距離が、近い←大浦君<清水君<鑑賞者→遠い、という順になっている。レンズの手前の撮影者と写真の外側の鑑賞者を意識することで、被写体=スカウトを取り巻く階層構造がみえてくるわけです。

このように考えると、スカウトあるいはスカウト運動への貢献のグラデーションは、かなり広範囲に及んでいることが分かるでしょう。ボーイスカウト運動が成立しているのは、スカウトを中心とした同心円状に

広がる貢献(奉仕)のグラデーション、あるいはスカウトへの眼差しの距離に長短の幅があること、さらに言い換えれば、現場に対する支援に幾層ものレイヤーがあることに拠っているのです。

大浦君と清水君の写真を合わせて鑑賞すると、現場への距離感の違いを通して、ボーイスカウトが何重もの奉仕の輪に囲まれて支えられていることがみえてきます。特に清水君の写真は遠景なため、このことが分かりやすく現れているのです。

ボーイスカウト運動は「たしかにそうになっている」

このような、言葉では表しきれない感覚(世界把握、「触知」)を、写真鑑賞によって体験して貰えればと思っています。

育成会より

10月20、21日の尾山台フェスティバルでは、両日お天気にも恵まれ、カブ隊の協力のもと多くのお客様にロープ結び、火起こし体験、また寝袋体験を楽しんでいただく事が出来ました。交通整理におきまして、多くの保護者の方々、ボーイ隊以上のスカウトに協力いただきました。こうして大盛況に終わることが出来たのもお手伝いに入ってくださった保護者の方々、また各隊リーダー及びスカウト達のお陰と育成会役員一同心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました。次の行事は、1月中旬に行われます九品仏バザーとなります。引き続き皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

🍎🍌🍇🍓🍑🍒🍓🍌🍎 🗣️🗣️🗣️🗣️🗣️🗣️🗣️🗣️🗣️🗣️ 🍎🍌🍇🍓🍑🍒🍓🍌🍎 会議報告

- 団委員会・団会議 10月27日(土) 20:00～ 尾山台地区会館第1会議室
- ★ 世田谷11団の鈴木団委員長が参加されました
今後5団と11団、協力して活動して行きたい
 - ★ 2019年 23WSJ(世界ジャンボリー)
2022年 日本連盟100周年・・・18NSJ(日本ジャンボリー)
5団70周年 記念キャンボリー
 - ★ 各隊報告
 - * CS隊の「赤い羽根の共同募金」4駅(上野毛、尾山台、緑が丘、奥沢)合わせて¥104,848 集まりました
→ 来年、世田谷区社会福祉協議会から表彰されることになっている
 - * BS隊 秋季キャンプ(11/3,4)は11団と合同で行う
 - ★ 尾山台フェスティバル(10/20、21)ブース参加 報告(育成会より)
 - ★ 地区協議会関連 連絡事項(団委員長より)

育成会活動報告
10月20日、21日 尾山台フェスティバルにてブース出店、交通整理。ロープ結び、火起こし体験、寝袋体験を企画。

会議予定

- 11月11日(日) 育成会役員会 場所、時間未定
- 11月24日(土) 団委員会・団会議 尾山台地区会館第1会議室 20:00～22:00
- 12月15日(土) 団委員会・団会議 奥沢地区会館第3会議室 15:00～17:00

